

マイヤ・タンミ 《The Problem of the Hydra》

[ヒドラが画面に現れる]

ヒドラの問題。

1700年代には「謎」と呼ばれていたヒドラ。

ヒドラは、植物なのか、動物なのか？

動物は、部分が互いに独立しては生きることができない、機械であるという。

そこで彼らは、それをふたつに切った。

「もし両方の部分が生きていれば、それは植物だ。両方の部分が死ねば、それは動物である。」

[首を切られたヒドラの頭が動く]

両方の部分が生きていた。では植物なのか？

[ヒドラがミジンコを捕まえる]

しかし、両方の部分が再生して、動いて食べる完全な組織体になった。初期の生物学者たちは、これは動物に違いないと認めざるを得なかった。

[スポットライトを浴びるヒドラ]

魂の問題。

ヒドラに魂はあるのか？

もしヒドラに魂があるとしたら、ヒドラを真っ二つに切り、両方の部分が完全な動物に再生したとき、魂はどうなるのだろうか？

片方だけに魂が残るのか？ もしそうなら、どっちに？

彼らは、動物の中に魂の種があるに違いないと考え、動物を切断すると、もう半分新しい魂が生まれると考えた。

しかし、魂が何から構成されているのかは誰も知らない。

[ミジンコ、コオロギ、ミジンコ、コオロギ]

老化しないという問題。

すべての動物は老化する。それは既知の事実(だった)。繁殖可能な間隔が短くなるほどに、寿命は短くなる。

[宙返りをするヒドラ]

ヒドラは1週間ほどで、有性生殖もするし自身のクローンをつくることもできる。しかし既知の事実と反し、老化して死ぬことはない。

生き続け、繁殖し続けるのだ。

ひとつの結論が不可避となった。すべての動物は老化する、ただしひとつの種は除いて。

[エビを食べるヒドラ]

口の問題。

ヒドラの頭には、開口部がない。

しかし食べるのだから、口があるはずだ。

完全に密閉されている、口。

ヒドラが食べる時、あるいは嘔吐する時は、様子が変わる。

ヒドラは細胞接合部を引き離して口を開ける。口を裂く。そして再生させて、口を閉じる。

[動く多頭ヒドラの塊]

死なないという問題。

どんな多細胞動物でも単細胞に分解すれば死ぬ。しかしヒドラは違う。ヒドラの細胞は互いに接着して塊を形成し、その塊が動物として再生し始める。まず、頭。そしてそれぞれが、ヒドラの完全体になるのだ。

[コンピュータ画面上のヒドラ]

人間は切り刻まれて生きることはいできない。人間は自身のクローンをつくることも、永遠に生きることはいできない。しかし、一匹のヒドラを研究するのに一生を費やすことができる。けれどヒドラの年齢を知ることはいできないのだ。

理論物理学者たちは、時間は実際には存在しないと言う。しかし、科学者たちはヒドラの誕生パーティーを開く。

[暗転]

彼らはケーキに何をのせるのだろうか？